

完全図解テキスト+過去問 3 年分×2 コンクリート技士・主任技士試験対策 2016 年版
 <正誤表>

- p.30 「⑦JIS にない特殊なセメント。」のV
 V.高ビーライト系セメント：C₃S が主成分 → V.高ビーライト系セメント：C₂S が主成分に修正。

- p.36 練混ぜ水⑥ および「上下道水以外の水の品質」の表の塩化物イオン量
 「ppm」 → 「mg/l」に単位修正。

- p.37 「回収水の品質」および「上下道水以外の水の品質」の表の塩化物イオン量
 「ppm」 → 「mg/l」に単位修正。

- p.43 ■高炉スラグ微粉末の品質[JIS A 6206]を「3000」を追加し下記表に修正。

品質		高炉スラグ 微粉末 3000	高炉スラグ 微粉末 4000	高炉スラグ 微粉末 6000	高炉スラグ 微粉末 8000
密度	g/cm ³	2.80 以上	2.80 以上	2.80 以上	2.80 以上
比表面積	cm ² /g	2 750 以上 3 500 未満	3 500 以上 5 000 未満	5 000 以上 7 000 未満	7 000 以上 10 000 未満
活性度指数 %	材齢 7 日	—	55 以上	75 以上	95 以上
	材齢 28 日	60 以上	75 以上	95 以上	105 以上
	材齢 91 日	80 以上	95 以上	—	—
フロー値比	%	95 以上	95 以上	90 以上	85 以上
酸化マグネシウム	%	10.0 以下	10.0 以下	10.0 以下	10.0 以下
三酸化硫黄	%	4.0 以下	4.0 以下	4.0 以下	4.0 以下
強熱減量	%	3.0 以下	3.0 以下	3.0 以下	3.0 以下
塩化物イオン	%	0.02 以下	0.02 以下	0.02 以下	0.02 以下

- p.72 圧縮強度試験⑦の式
 $P/\{\pi(d/2)\}^2$ → $P/\{\pi(d/2)\}^2$ に修正。

- p.75 コンクリートの変位性状③
 静弾性係数 (ES) → 静弾性係数 (E) に修正。(S を削除)

- p.124 ⑤の二つ目の式
 平均値 (σ) → 標準偏差 (σ) に修正。

- p.137 図の下側 ↔の説明
 上：練混ぜから打込み終了まで (JISA5308) → 上：練混ぜから荷卸しまで (JISA5308)
 下：練混ぜから荷卸しまで (標準示方書、JASS5) → 下：練混ぜから打込み終了まで (標準示方書、JASS5)

- p.152 ■基礎・はり側面・柱およびせき板の存置期間を定めるためのコンクリートの材齢の表を一部追加し
下記表に修正。

表 7.4.4 せき板の存置期間を定めるためのコンクリートの圧縮強度および材齢 [JASS 5]

セメントの種類		基礎・梁側・柱および壁		
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種 フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種 シリカセメントB種 フライアッシュセメントB種
コンクリートの圧縮強度		短期および標準 5 N/mm ² 以上 長期および超長期 10 N/mm ² 以上		
コンクリートの材齢 (日)	平均気温 20℃ 以上	2	4	5
	平均気温 10℃ 以上 20℃ 未満	3	6	8

- 注：1) スラブ下および梁下のせき板は原則として支保工を取り外した後に取り外す。
2) 支保工の存置期間は、スラブ下、梁下ともに設計基準強度の100%以上のコンクリート強度の確認が原則。

- p.167 F4-11 解答

セメント 4℃、水 2℃、骨材 1℃ → セメント 8℃、水 4℃、骨材 2℃

- p.202 一番下の図 右中段の語

破裂 → 破壊

- p.220 問題 9 表中の水セメント比と細骨材率の値

水セメント比 55.0 細骨材率 49.5 → 水セメント比 50.0 細骨材率 49.0

- p.221 問題 10 表中の水セメント比の値

水セメント比 55.0 → 水セメント比 50.0

<本書サポートサイト>

<http://www.shuwasystem.co.jp/support/7980html/4673.html>

<秀和システム>

<http://www.shuwasystem.co.jp/>